

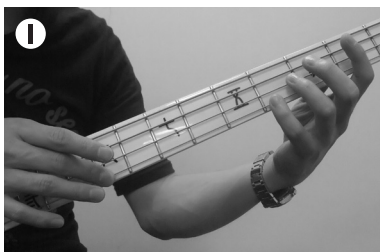
注意点1



右手

細かい弦移動を伴う 発展ライト・ハンド奏法

これまで紹介してきたライト・ハンド・フレーズは、すべて1本弦フレーズだったが、ここでは複数弦を使ったパターンに挑戦してみよう。メイン・フレーズ1小節目の使用弦は、1拍目が3弦で、2拍目から2弦、2拍目の最後から1弦に移動し、3&4拍目では1弦と2弦となる（写真①～③）。実際の演奏時には、開放弦を交えたプリング&ハンマリングの発音が弱くなりやすいので注意しよう。また、右手のタッピングがアクセントとなることと、3拍目のアタマに16分休符が入ることに気をつけてほしい。まずは付属CDを聴き込んでフレーズを頭に入れることが大切だ。右手の人差指と中指をうまく使い分けて、正確に弦移動すべし！



① 3拍目1音目は、中指で1弦をタッピングする。



② 2音目は、弦移動して人差指で2弦を叩く。



③ 4拍目の最後は、再び中指で1弦をタッピングしよう。

注意点2



右手

左手のコードに絡むように 右手のタッピングを加えよう

松フレーズは、8分音符のタイミングで弦移動するため、コード・タッピングに近いライト・ハンド奏法となる（コード・アルペジオに右手のタッピングを加えたパターン）。1&2小節目は、左手中指で3弦14フレット、人差指で2弦13フレット、薬指で1弦15フレットをあらかじめ押さえておき（＝B△7【註】を押さえる）、右手人差指で3弦16フレット、中指で2弦16フレット、薬指で1弦18フレット、中指で2弦16フレットを順番にタッピングしよう（写真④～⑦）。指力が弱い右手薬指のタッピングと右手によるプリングがしっかり発音できないことが多いので、特に右指の動きに注意することが大切だ。



④ ライト・ハンドの順番。まず、3弦を人差指で叩く。



⑤ 2弦を中指でタッピング。左手が離弦しないように注意！



⑥ 薬指はしっかり振り上げるように心掛けよう。



⑦ 再び、2弦を中指で叩くべし！

～コラム30～

将軍の戯れ言

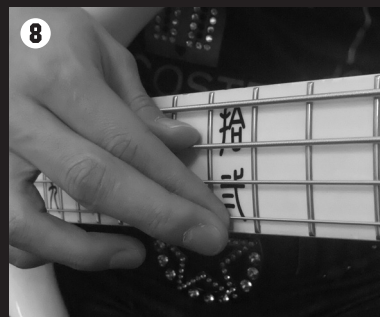
ピッキングは、弦を弾く指先（作用点）、ピックアップに乗せる親指（力点）、ボディに触れる腕（支点）の3点による“てこの原理”がしっかり成立することで安定する。そのため、腕がボディから離れてしまうと、音にバラつきが出てしまうので注意しよう。

この話は、タッピングやライト・ハンド奏法にも共通する。ライト・ハンド・フレーズの演奏時に右手親指をネック上に置いてバランスを取ることで、タッピングする指にも安定した力が供給できるだろう。ちなみに、1弦や2弦を多用するライト・ハンド・フレーズでは親指を3弦や4弦上に置くと、こうすることで余弦のミュート

“てこの原理”を使って、右手を安定化！ タッピング時の指の置き方を工夫せよ

とも同時に行なえるのだ（写真⑧）。まさに一石二鳥である。

ライト・ハンド奏法では、タッピング後の指の移動方向も重要になる。例えば、右手人差指でタッピング&プリングする際には、指を足元の方ではなく、身体の方に動かすのが理想的だ。この動きの方が右指の回転力と安定感が増すので、タッピング&プリング音をよりクリアに鳴らすことができるだろう。タッピングは、超絶ベーシストの目標である“ギター殺し”のための重要テクニックの1つなので、このような細かいポイントを含めて、ぜひ深く研究してほしい。



⑧ 1&2弦でのタッピングでは、右手親指を3・4弦に置く。こうすることで、余弦のミュートもできるのだ。

【B△7】“Bメジャー・セブンス”と読む。B音（ルート音）・D♯音（3rd）、F♯音（5th）、A♯音（△7th）の4音によって構成されるコードだ。